

# 相手に伝える

富岡市立富岡中学校

三年 二組 市川 七望

皆さんは、相手に自分の意思を伝えられていますか？表現できていますか？

私は相手に意思を伝えることができていません。声も小さく、誰かが先に言わないということできないし、誰かがやらなければやりません。だからいつも、その場の空気に流されて、自分から行動することを怖がっています。他人に頼ってすがっているだけだと分かっていますが、それでもいいのではないかと思っていました。ですが、部活動で「ソロコンテスト」に出場した時のことです。

私はいつも、練習では「音色をよくしよう」「このできないところをできるようにしよう」と考

え、真面目に一生懸命やっている、できている、と思っていました。実際、先生にも褒められていたので、「いい結果が出るはず」と期待して出場しましたが、結果は目標達成どころか、目標よりかなり下の成績でした。確かに思い当るところも、詰めも甘さもあったので納得しようと思いましたが、やっぱり「なぜ？」とどうしても思っていました。そんな私に先生は「あなたは表現力が足りない。だから、ただきれいな指が回っている、というだけの演奏になっている」と言われました。私はこの言葉で、初めて自分の演奏にこの結果はピッタリなんだと、今度はしっかりと納得しました。私は「ただ指が回り、ミスをしないうえ練習」をしていただけで、「こうやって吹いて、この気持ちを伝えよう」と練習しませんでした。プロやその大会で金賞を取った人は皆、演奏を聴いているといろいろな感情が伝わってくるのに、私の演奏は、ミスをしないうえに、まるで機械が吹いているように、無機質な演奏でした。また、私は部

活動を通して「意思をはっきり伝える」「表現しようとする事」の大切さを学んでいました。なのに、「自分を変えようとせず、だれかの後について、自分から行動することを怖がり、真面目に決められたことのみ練習する。」それで満足していました。私の演奏は、私そのものでした。

そんな私が、本番でいきなり、人を感動させられる演奏ができる訳もなく、後からすごく後悔しました。

自分がどう吹きたいのかを、言葉のない旋律で相手に伝えるのは、私のような人にはとても難しいことです。でも、私は変わりたい。だから、分厚い雲のような「困難」を、「これくらい大丈夫」と乗り越え、雲なんて切り裂いて、晴天を見て笑ってやります。私はもう、後悔したくないので、限界まで息を吸って吐き、やらなくてはいけないことを一つずつやります。

私は今、ソロコンテストを終え、自分を変えようと努力しています。その努力のおかげで、友達

と表情豊かに話し、授業中の発言や、自分からする行動が増えました。しかし、これは過程です。言葉のない吹奏楽で、「相手に思いが伝わる」ということは、強い気持ちがなくてはできません。次のコンクールで同じことを繰り返さないよう全力で取り組み、最後は笑顔で終わらせます。

「相手に伝える」。自分の思いや考えがしっかりと伝わるように、届くように、今日も私はクラリネットを吹きます。